

SCS評価制度時代の エンドポイントセキュリティ

ー サプライチェーンの信頼を端末から。ー

サプライチェーン全体のセキュリティ強化が求められる中、SCS評価制度では、資産管理・脆弱性対応、不正アクセス対策・インシデント対応など、エンドポイントに関わる対策が重要視されています。Lenovoは、ThinkShieldのもと、業界をリードするハードウェアとともに、エンドポイント起点で組織のセキュリティ強化を支援します。



今、エンドポイントに求められる6つの対策領域



資産の把握・管理

すべての端末とソフトウェア資産を可視化する。



脆弱性管理

OS・アプリの脆弱性を把握し迅速に対応する



不正アクセス対策

認証情報の保護と不正なアクセスを防ぐ



マルウェア対策

侵入を防ぎ侵入後も検知・封じ込める



ログ管理・監視

証跡を取得し異常を継続的に監視



インシデント対応・復旧

被害を最小化し迅速に復旧する

SCS評価制度への対応で検討すべきセキュリティ対策（エンドポイント関連の例）



サプライチェーンの
継続的な信頼のために。

- ✓ 組織・端末の資産管理と構成管理
- ✓ 脆弱性の把握と対策の実施
- ✓ 不正アクセスの防止と認証基盤の強化
- ✓ マルウェアなどへの多層的な対策
- ✓ ログの取得・保管とインシデント対応対策の整備

※SCS評価制度:サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策制度（経済産業省・IPA）

エンドポイントライフサイクルを、ThinkShieldで包括的に支援

導入
計画

設定
展開

運用
監視

検知
対応

復旧
リカバリ

廃棄
再利用



安全な構成の
策定・導入



セキュリティ設定・
ポリシー適用



資産・脆弱性の
継続的な管理



脅威の検知・
分析・封じ込め



業務の継続と
迅速な復旧



データの安全な
消去・再利用

ThinkShieldがつなぐ、エンドポイントのセキュリティ



Lenovo セキュリティソリューション

組織の課題に合わせて、最適なセキュリティソリューションを。

LenovoはThinkShieldのもと、業界をリードするパートナーのセキュリティソリューションを組み合わせ、エンドポイントから組織全体まで、サイバーセキュリティ対策を支援します。

	エンドポイントの防御・検知・対応 (EDR/XDR)  SentinelOne 自律型AIによる次世代EDRで、 攻撃の検知・封じ込め・復旧を実現。	主なメリット ■ 高度な脅威検知・自動対応 ■ マルウェア・ランサムウェア対策 ■ EDR/XDRによる可視化 ■ インシデント調査の効率化
	IDの保護 (ITDR)  SentinelOne IDを狙う攻撃を検知し、 認証基盤の安全性を強化。	主なメリット ■ AD / Entra IDへの攻撃検知 ■ 不正な認証・権限昇格の防止 ■ IDのリスク可視化 ■ 迅速な対応と調査
	生成AI利用の可視化・制御 (AI Security)  SentinelOne Prompt Security 生成AIの利用状況を可視化し、 機密情報の漏えいを防止。	主なメリット ■ 生成AI利用の可視化・制御 ■ 機密情報の入力検知・ポリシー適用 ■ 業務での安全なAI活用を支援 ■ アラート・レポート機能
	脆弱性管理・IT資産管理 ivanti IT資産の可視化と脆弱性管理、 パッチ管理でリスクを継続的に低減。	主なメリット ■ 端末・ソフトウェアの可視化 ■ 脆弱性の特定と優先付け ■ パッチ適用の自動化・効率化 ■ コンプライアンス対応の支援
	端末の可視化・レジリエンス ABSOLUTE 端末の状態を常時可視化し、 紛失・盗難時もデータを保護。	主なメリット ■ 端末の位置・状態の可視化 ■ 自己修復機能によるレジリエンス ■ データの遠隔ロック・ワイプ ■ 端末のライフサイクル管理
	セキュアアクセス (VPN / ZTNA) ABSOLUTE 場所やネットワークを問わず、 必要なリソースへ安全にアクセス。	主なメリット ■ ゼロトラスト・ネットワークアクセス ■ ユーザー / デバイス認証 ■ マイクロセグメンテーション ■ クラウド / オンプレミス対応
	データ消去・証明・再利用  blancco PCのデータを確実に消去し、 安全な廃棄・再利用を実現	主なメリット ■ データ消去 (HDD / SSD / NVMe) ■ 消去証明の発行 ■ コンプライアンス対応 ■ 端末の再利用・リサイクル支援

次回お打ち合わせのご提案

まず30～45分、現在のセキュリティ対策や運用状況を確認し、ThinkShieldと各セキュリティソリューションでどこまでカバーできるか整理します。

打ち合わせ後に整理できること

1

優先すべき課題

2

端末側で対応ができる範囲

3

次回以降の進め方